

令和6年12月11日

いわき市病院事業管理者 新谷 史明 様

いわき市医療センター病院経営評価委員会
委員長 加藤 尚子

「いわき市病院事業中期経営計画（2021～2024）」に係る点検・評価
（令和5年度分）について（報告）

このことについて、標記計画に基づく令和5年度の取組状況等について点検・評価を行いましたので、次のとおり報告します。

本委員会で得られた助言・意見を院内で十分に検討し、今後の病院運営に活かしていただくことを期待します。

1 項目ごとの講評

(1) 令和5年度収支見通しと決算額の比較

- ・ 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し社会経済活動の正常化が進む中で患者数が回復したことなどから、医業収益は過去最高を記録した。一方で、高額な薬剤・診療材料を使用する患者の増加や、製造・物流コストの増加等による仕入れ価格の上昇により、材料費が大幅に増加している。今後も収益を確保するとともに、更なる支出の適正化に取り組む必要がある。

(2) 基本方針ごとの取組状況

① 基本方針Ⅰ

- ・ 「がん医療」の実績等は目標値を達成しており、高度急性期医療の提供体制が維持できていると考えられるほか、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の運用を開始するなど先進的な技術を取り入れた病院経営に取り組んでいる。
- ・ 市民や他医療機関に向けた情報の発信・開かれた病院づくりについては、今後も取組みを継続していただきたい。

② 基本方針Ⅱ

- ・ 臨床研修医が5年連続でフルマッチとなるほか、常勤医師数も維持しており、診療機能を充足させる取組みを行っていることは評価したい。
- ・ 医師招聘に向けた取組みを継続するほか、タスクシフティング等を通じて働き方改革を推進し、効率的な医療提供体制を構築していくことが求められる。

③ 基本方針Ⅲ

- ・ 感染対策に継続して取り組むとともに、自然災害発生時に迅速に対応できる

体制が整えられていると評価する。

- ・ 近年、サイバー攻撃により電子カルテ等のシステムが深刻な被害を受ける事例もみられることから、適切に対応いただきたい。

④ 基本方針Ⅳ

- ・ 患者数の増加や診療単価の高い症例の増加によって医業収益を確保し、8億円を超える純利益を確保したことは評価したい。
- ・ 未収金の対策強化など収入を底上げする取組みを行うとともに、材料費や経費といった支出面の適正化に今後も取り組んでいただきたい。

⑤ 基本方針Ⅴ

- ・ 「病院経営評価委員会」において経営全般に係る点検・評価を実施するなど、外部評価を踏まえた取組みが着実に進められている。
- ・ 経営形態のあり方について、今後、持続可能な医療提供体制を確保していくためには、地域の医療機関との間で「機能分化と連携」を図ることが大きな方向性となるため、連携強化に向けた各種手法等について、調査・研究を進めていただきたい。

2 全体の講評

令和5年度の病院経営については、本業である医業収益が大幅に増加し、最終的な経常損益は黒字となり、当面の運転資金も十分に確保出来ている。

一方で、医薬品・診療材料などの材料費が増加していること、人件費高騰による影響が今後ますます増大していくとみられること、医療センターの医師数は維持されているものの医療圏全体としては医師数が少ない状況であることなどから、医療提供体制の確保に関する見通しは決して楽観視できる状況にないと考える。

また、地域の中核病院として、医療DXの推進や、地域における役割分担の整理など、様々な課題への対応も求められるところである。

市医療センターにおいては、将来にわたり持続可能な医療提供体制を確保するため、地域で求められる高度急性期医療や政策医療等を着実に提供するとともに、安定した経営基盤の確立を図るため、取組みを一層推進することを期待する。